

介護

の現場から

その47

介護老人福祉施設「池幸園」は、建設から、今年で19年目を迎えました。

この間、設備の老朽化や利用者からのニーズに
応えるために、改修工事
や機器の更新を行ってき
ました。平成16年には、
1階の大規模な改修工事
を行い、浴室やデイサー
ビスホールの拡張と事務
室のオープン化等を実現
しました。そのほかにも、



PHS(簡易型携帯電話機)と連動するナースコール設備の更新、背上げ動作時に姿勢が崩れにくい機能を搭載した低床ベッドへの入れ替え、給湯ポイラー、濾過器、業務用洗濯機、乾燥機も新しくなり、パワースタップが図られました。

特に浴室の改修については、リニューアルのためのプロジェクトチームを立ち上げ、施設のスタ

利用者ニーズに応えた改修

池幸園業務副主任・防火管理者 小林 政志

スタッフが工事の入札から完成検査まで、終始一貫して工事に携わりました。

突貫工事で困難をきわめましたが、電気工事士、配管技士、福祉住環境コーディネーター等の資格知識を駆使しながら、工事関係者の知識とスタッフの経験を橋渡しのもとに竣工に至りました。

個人が家を建てる際には、家族の意見や「思い」が、設計に組み入れられるのに対して、新設される施設では、そこに住む人、利用する人、働く人の立場に立った声で、設

スタッフが意向を代弁

計に届かないのが、現実です。

そのような「思い」から、現場で働くスタッフが、介護の経験を基に利用者の意向をくみとり、

代弁し、想い通りの浴室が完成したことは、この上もない喜びでした。

これまでは、池幸園について申し上げましたが、当施設の1階北側には、



園芸療法の一環で野菜の栽培もしています。

で気軽に話題にどけておくことができるのです。

また、一鉢の草花が、一人暮らしの孤独感を和らげる効果もあるようです。

植物がコミュニケーションの仲立ちになるのが、園芸療法の基本です。

来園されるたびに、花の様子をスタッフに報告してくれるSさんは、大の花好きで、この季節になると水やりや枯れ葉をつんだり生き生きと花の世話をし、輝いています。

このことだけをどうでも園芸療法の目的は十分に達成されています。

テラスに並ぶ160鉢のつりがね草は、これからの冬の寒さに耐えて、花を咲かせ、実を結ぶための春を待ちわびています。

このコーナーは第2、第4水曜日付に掲載す

例になっているのが、つりがね草の植え付けで、今や健康園を象徴する花

利用者でも植物を媒介にして